

第47回全日本サーフィン選手権大会に出場する



おのだまさひろ
小野田政宏さん

わたなべ けい
渡邊 圭さん

とがりそうへい
戸河里宗平さん

やまぐちたかし
山口高志さん

まついげんいちろう
松井弦一郎さん



御前崎の海をこよなく愛する男たち

PROFILE 左から渡邊圭(30:白羽区)、松井弦一郎(38:新谷区)、戸河里宗平(28:大山区)、山口高志(34:薄原区)、小野田政宏(46:女岩区)

サーフィンの聖地

第47回全日本サーフィン選手権大会に御前崎市から出場する5人を取材するため、7月28日の朝7時に御前崎海岸に向かうと、サーファーたちが通称坂下と呼んでいるサーフポイント近くの市営薄原駐車場は、県外ナンバーの車で既に満車状態。御前崎は、全国のサーファーたちのあこがれの聖地なのだ。

全日本選手権は、国内最大の大会で、今年は8月22日から三重県志摩市の国府の浜海岸で開催される。年齢別の各クラスに別れ、制限時間15分の中で、いかに難度の高い派手な技ができるかを競うもの。自然を相手に、タイミング良く波を捕らえられるかが勝負のカギとなる。

それぞれの思い

5人が大会に臨む意気込みなどを語ってくれた。

小野田政宏…集中して自分の力を出し切りたい。サーフィンの魅力は、自然との一体感。
戸河里宗平…初出場だから雰

囲気を味わえるだけで十分満足。全国トップクラスの選手
の技を見るのが楽しみ。
渡邊圭…一戦一戦を大事に、
優勝目指して頑張る。

松井弦一郎…奄美大島出身の僕にとってサーフィンはずっとこの頃からのライフスタイル。これ以上の上のころはないと思つて御前崎に移り住むことを決めた。

山口高志…前回かなわなかったファイナル出場を目指す。

サーファーの願い

全日本選手権に出場するサーファーたちを育てた御前崎の海岸も、10年前に比べるとその姿は全く変わってしまったという。海岸から砂が激減し、海中に露出する岩で足をけがしたりサーフボードを破損するケースが増えている。砂を入れずに、そのまま放置しておけば5年後、この海岸でサーフィンにはできなくなるというわれている。海岸に砂を戻すことで、御前崎は聖地であり続けることができる。5人の共通する思いは、今回の大会への出場以上に御前崎の海を守ることにある。